

最上地域の児童との交流会でエイサーを披露する中部の児童。13日午後、新庄市のベルフオール新庄玉姫殿



児童再会、喜びの演舞

沖縄・山形交流事業

【山形県で当山幸都】中部広域市町村圏事務組合が山形県最上広域市町村圏事務組合との交流事業のため派遣している児童交流団68人が13日、滞在先の最上地域に到着した。児童らは新

庄市内で昨年9月に沖縄を訪れた最上地域の児童と再会を果たし、親睦を深めた。

読んで
広がる
NIE

児童は3泊4日の日程でスキーや最上川の舟下りなどの体験を通

し、雪国の生活や文化を学ぶ。最上地域の児童との交流会で中部広域の児童は三線を演奏し「安里屋ユンタ」を合唱したほか、エイサーの「ミルクムナリ」を踊り沖縄の文化を紹介した。最上の児童は山形県の伝統芸能「花笠踊り」などを披露した。

最上町立赤倉小6年の平社菜々香さんは「山形の寒い冬、雪をたつぷり味わって」と歓迎。読谷村立喜名小5年の島袋翔伍君は「いろんなことを学習して、沖縄の家族や友人に伝えたい」と力強くあいさつした。